

第 17 回テーマ

「人を残す」人生観

先日クライアント先の創業者である会長様が亡くなられ、今日はお通夜に参加した。あいにく外は寒く雨が激しく降り、まさに涙雨となったわけだが、その弔問客の多さに人脈の深さと故人の人柄を感じさせてくれた。

不思議なもので届けられる献花の多さというよりも、弔問客同士が声を掛け合ったり視線を交わしたりする「横のつながり」の深さが気になった。当然、会話程度は良くある話だが、明らかに頻度が高い。決して親族や友人ばかりという事ではなく、故人を中心に作られた「横のつながり」であろう。改めて資産や会社を残すだけでなく「人を残している」という事だろう。

つい先日、民事再生した JAL がデルタ航空グループではなく、現在提携しているアメリカン航空グループとの提携維持を決めた、というニュースを思い出した。今度、社長に就いた稲森社長の言葉で「そんなに簡単に長い取引先をきっていいのか」という言葉が決定打になったというが、まさに感銘を受けた。大企業でも創業時代はある。ともに苦難を乗り越え、取引を継続してきた企業はまさに「同志」であり「戦友」ではなからうか。ビジネスだから、時には着かず離れずのケースもあれば、互いに切磋琢磨し成長してきたはずである。また、企業が大きくなればなるほど、感情に流されるというのは良くないし、厳しい判断を下さねばならない事は多々あるだろう。しかしながら、ビジネスを超えた部分でつながっているものというのがある。それが人間関係であり「信頼」という事なのかもしれない。その輪が少数のリーダーでつながり、大きく広がっている、というわけだ。

改めて目指すべきは「人を残す」事ではなからうか？「財を残すより、仕事を残すより、人を残す」と言うが、これが最も難しい。シンプルに表現すれば「人間力」というべきものだろうか？カリスマとでも言うべきものか？まだわからないが、少なくとも故人は間違いなく「人を残した」人だと思う。直接教えを願う事はもうできないが、生きている間にそういう事を意識していきたいと感銘を受けた。

そして、改めて企業の「人材育成」の重要性を感じた瞬間であった。